

タンチョウ

北海道の自然を代表する生きもののひとつ。ツルの仲間で、日本最大級の鳥です。もともと湿原に暮らす鳥ですが、湿原の開拓、乱獲などにより数を減らし、国の特別天然記念物に指定されています。

タンチョウを観察するときは、近づきすぎず、建物や車の中から優しく見守ってください。



安心してるとき

警戒しているとき

舞鶴遊水地

2015年、洪水調節のために長沼町舞鶴地区に整備された治水施設です。

「タンチョウも住めるまちづくり」の取組の核でもあり、2020年にタンチョウの雛が誕生しました。

バードウォッチャーをはじめとして多くの方が自然や野鳥を楽しむために訪れています。

第2版 2021年8月発行

発行 長沼町
デザイン 長沼町地域おこし協力隊
イラスト エトブン社 新岡 薫

ながめま
タンチョウ
おもてなし
セレクシヨン

このパンフレットについて

長沼町には、タンチョウをモチーフとした沢山のグッズ・メニューがあります。この度、そうした「ながタングッズ」を一挙に紹介するパンフレットを制作しました。

このパンフレットを手に、長沼町内のいろいろなお店を巡ってみてください。

※ながタン…ながめまのタンチョウのこと

長沼町の タンチョウも住めるまちづくり

長沼町は、昔は湿原と沼が広がっていました。そこには多くの水鳥が暮らし、タンチョウが子育てをしていました。近年、開拓と乱獲により姿を消していたタンチョウが帰ってきて、舞鶴遊水地で100年以上ぶりの雛が誕生しました。

長沼町では「タンチョウも住めるまちづくり」と題して、タンチョウが暮らせる環境の保全・再生と地域づくりを進めています。



取組のロゴマーク

